

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)		-	-	-
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・新学期の受注が前年よりも上回っている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客数の増加。客単価も前年を上回っている。客の様子にゆとりや明るさを感じる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・2月は、本来、アパレル関係は非常に厳しい月ではあるが、初春物の出が比較的早かったように感じる。また、単価も少し高かったため、感覚的には改善している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の効果もあり、高額車種を中心に販売できている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・前月に引き続き販売量は前年を上回る動きをしているが、当月受注が前年を下回っており不安材料もある。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新しいモデルの販売が順調で、自動ブレーキ装備の車両への買換えも順調。
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・以前は1～2月辺りは、正月が終われば業界としては暇になり、2月は旅行シーズンという感覚がなかったが、今は1月も2月も平均的に良い傾向がある。これは、時代の流れだと考える。地元温泉街は改修している旅館が多数あるため、全体の数字は落ちているが、それなりに観光客は訪れている。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・当社サービスで核となるサービスの販売量が少し増加傾向にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・前年12月の通行量調査の結果でも、商店街内の大部分の地点での通行量が上昇しているという報告があった。全体としても通行量が上昇しているということで、若者と観光客を中心に来街客が増えている。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・商店街は平日を含めインバウンドの増加もあり、人通りも多く活気がある。インバウンドの高額品需要が目立ち始めたのに比べ、2月初めの株価の下落に伴い、消費をけん引してきた富裕層の動きが悪化しており懸念している。株価も回復基調にあり、一段の下げがないことを祈りたい。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・店舗販売は単価が安めのお手頃な商品中心で売上が伸びないが、高額の前約商品の売上が良かった。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・例年より寒かったせいか、飲料の商品の動きが鈍い。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・寒波の影響で来客数が苦戦をし、売上の伸びが若干弱った傾向があるが、前年に比べて余り変わっていない。
		百貨店（営業統括担当）	販売量の動き	・寒波の影響があり、全館動員が減少し、衣料品の動きが鈍い。一方で、高額品は堅調に推移。またインバウンドの売上は伸びている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・2月は非常に寒い日が多く、客足が遠のいた。気温が上昇した後、来客数が増えるかがポイントになると思う。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・数値的には売上高の前年比は上昇しているが、野菜の高騰など商品の単価の上昇によるところが大きい。来店客数自体は流れが変わっていない。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・競合激化と寒波で客数が減少。高騰している青果を中心に、客単価上昇で客数減をなんとか吸収している。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・客数の前年比は変わらず、前年割れ傾向が続いている。企業努力で客単価を上げ、売上は前年を上回っている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・3か月前と比べて、景気は余り良くなっているとは思えない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活需要で販売量が増えることを見込んでいたが、件数も販売量も少なく3か月前と同程度にとどまった。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・今月度は、寒波により、季節商材の販売が好調に推移できた反面、情報商品の販売が落ち込んだ。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月、新車の受注状況は前年並みで推移している。

	その他小売 [ショッピング センター] (副 支配人)	来客数の動き	・週末の来店客数減が続いている。単価アップでしのいでいる状況である。
	都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・大寒波の影響もなく来客数は若干増えたが、単価が伸びない。全体で言うと、まだ単価は前年比でマイナスに推移している部分もあるので、景気は変わらない。
	旅行代理店(営 業部長)	お客様の様子	・インバウンドは依然好調であるが、国内団体や国内個人の動きが悪く、大きくは好転していないのが現状である。
	通信会社(社 員)	販売量の動き	・学割のシーズンだが、例年の販売量とさほど変わらない。
	通信会社(支店 長)	販売量の動き	・春商戦期であるが、目立った動きは見られない。
	競輪競馬(マ ネージャー)	来客数の動き	・前年11月と比べて来場者数は1割ほど増加しているが、増収にはつながっていない。1人1人の利用額が全体的に減少傾向にあり、景気動向は停滞気味である。
	百貨店(販売促 進担当)	販売量の動き	・前年になく大寒波により客足が鈍り、バレンタイン商戦などが苦戦。さらに、12月まで堅調であった高額品の動きが鈍化した。
	コンビニ(店 長)	来客数の動き	・今年の2月前半は例年になく売上が前年対比でプラスとなっていたのだが、後半は同比でマイナスとなり、毎月同様、前年割れの状況。
	衣料品専門店 (総務担当)	販売量の動き	・客数、客単価共に大幅に前年を下回って推移している。非常に気温が低い日が続き、客足に悪影響が出るとともに、春物商材が大幅にマイナスで推移した。
	タクシー運転手	お客様の様子	・常連客の乗車頻度が少なくなっており、売上はやや悪くなっている。また、確定申告の時期が重なることもあり、個人事業主の飲食の頻度が大変少なくなっている。
	通信会社(営業 部長)	販売量の動き	・販売量が3か月前に比べ約20%減少した。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・3月に卒業式があるので直前まで客が動かない。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・来客数が少ない。
	x	-	-
企業 動向 関連 (四国)	建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・第4四半期も中旬を過ぎ、2か年継続や次年度業務の公共事業が発注されてきている。補正予算は、地域や業種によりばらつきがあり、総じてよしくない。現在は、手持ち業務の納品時期に当たり、フル稼働状態であること、次年度業務の受注が例年どおりであることから、良くなりつつある。
	輸送業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・恐らく冬季オリンピックの良い雰囲気も手伝い、業界の景気マインドも良い流れであると思う。
	木材木製品製造 業(資材購買)	受注量や販売量 の動き	・住宅市場に関しては例年どおりの動き(1~3月に動く)とは若干異なる様子で推移している。現場・物流などで多く聴かれる人手不足の影響もあると思われる。
	鉄鋼業(総務部 長)	受注価格や販売 価格の動き	・原材料価格高騰を受注・販売価格に転嫁できていない。
	電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・受注量は変わらないが、収益が増えないという現象になっている。これは、太陽光発電機材が欧米で製品の価格が下落したように、日本でも同様の傾向にあり、「変わらない」とした。
	電気機械器具製 造業(経理)	受注量や販売量 の動き	・得意先に対する製品出荷に関し、3か月前に比して大きな変動は見られない。
	建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・受注が相変わらず低いレベル感にある。
	輸送業(支店 長)	取引先の様子	・物量の増加は見られない。

	輸送業（営業）	競争相手の様子	・景気低迷が要因とされる取扱物量の低下が長引くなか、先頃まで運賃値上げを実施していなかった経営体力のある大手業者の中にも値上げの動きがみられるようになった。運賃交渉が不成立に終わり既存取業者からの運送契約解消を打診された荷主や業者からの引き合いが以前にも増して増加の傾向にあるが、人材不足の影響を強く受けるなか、受注できないのが現状である。	
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・3か月前との比較で取引先企業の業績、資金需要共に大きな変化は見られない印象。	
	公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先企業の決算、また試算表等を分析すると、ほとんどの企業が前年比で、売上等について変化がない状態。	
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・青果物の卸売市場価格は、例年に比べ高値基調は続いているものの力強さに欠け、市場入荷が例年に届かないまでも少し回復した品目は価格が急落するなど、流通の硬直化がみられる。また、業務需要では仕入れに対し納品価格が低い逆ざやの状況が続いており、納品業者の経営を圧迫している。流通関係全般に利益率は低く、体力の消耗戦になってきている。	
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年末からの寒波により、今月も関東、東北、北陸、北海道地区の小売店が厳しかった。併せて全国的にインバウンド効果がある地区以外は、地方においても過当競争による客の取り合いで厳しくなっている。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年に比べ、受注量が少し落ちてきた。	
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・寒波の影響で野菜出荷用の包装資材が低調。また、寒波の影響は各種イベント・観光・レジャーへも影響があり同関連品の需要も低調となった。	
	x	-	-	
雇用 関連 (四国)	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣登録者が前年を大きく上回っている。ハローワークとの比較で派遣会社にも登録に来て、より良い案件を求めているように感じる。	
	職業安定所（職員）	それ以外	・1月の有効求人倍率は1.62倍だが、3か月前と比べて0.09ポイント上昇しているの、「やや良くなっている」と判断した。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・非正規雇用が減少し正規雇用での募集が目立つようになった。	
	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・有効求人倍率が高い状況で、求人数は更に増えてくるが、就職に結び付いても3か月以内に離職するミスマッチも増えているように感じる。人材を受け入れるスキルも必要だが、働きがいを持たための労働スキルも必要である。そのバランスが悪循環していることで、景気の良しあしの判断が難しいと考える。	
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内各企業の採用者数の動きをみると、軒並み増加している。3月にスタートする大学・短大・専門学校卒の採用メディアへの情報掲載件数も増加傾向。採用者数が増え、求人倍率が上がったことで景気は良くなったように見えるが、各社とも実情は人手不足により、業務計画・人員計画が定まらず、疲弊気味である。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・上がる要素が当地に余りない。	
	民間職業紹介機関（所長）	雇用形態の様子	・製造業においては相変わらず求人難が続いているが、採用基準が厳しい面があり、特に若い方々については、将来性、今後の活躍への期待感を含めて、採用基準の緩和が望まれるところである。理想の人材を求めるばかりでは、人材が確保できないと思われる。	
		*	*	*
	x	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人など人材不足で派遣の依頼も減ってきており、派遣料金も価格が高騰している。